

危険度判定票を作成してみよう

簡易記録



簡易記録 (擁壁)

手引き-20、21

記入例1
(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票
調査日時: ○年 ○月 ○日 ○時 調査番号: A-1
地蔵名又は隣接者名: ○○地蔵
調査場所: ○○郡 ○○町 ○○丁目 ○番 ○号

所有者・管理責任者: 内山 一郎
所在番・管理番の連絡先: TEL: 012-345-6789

記入者氏名: 前田 香の
TEL: ○○-○○-○○○○

被害状況図
1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の崩れ 4.ハラスミ 5-1.傾斜 5-2.凸凹 6.土留め 7.崩壊

5-1.傾斜: 危険状態 済 未了

被害状況	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度	危険度
1.クラック	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
2.水平移動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
3-1.不同沈下	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
3-2.目地の崩れ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
4.ハラスミ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
5-1.傾斜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
5-2.凸凹	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
6.土留め	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
7.崩壊	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8.その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
9.総合危険度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10.総合危険度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11.総合危険度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

応急措置 済 未了
 被災無 簡易記録

全景写真のみ撮影

被災写真の有無 無 有(写真番号:)
 特記事項

総合危険度判定
 危険 注意 軽微
 小被害: 1-4.5点未満 (当面は防災上問題無し)
 中被害: 4.5点-5.5点未満 (御注意下さい、進行していれば避難)
 大被害: 5.5点-6.5点未満 (危険、避難、立ち退き)

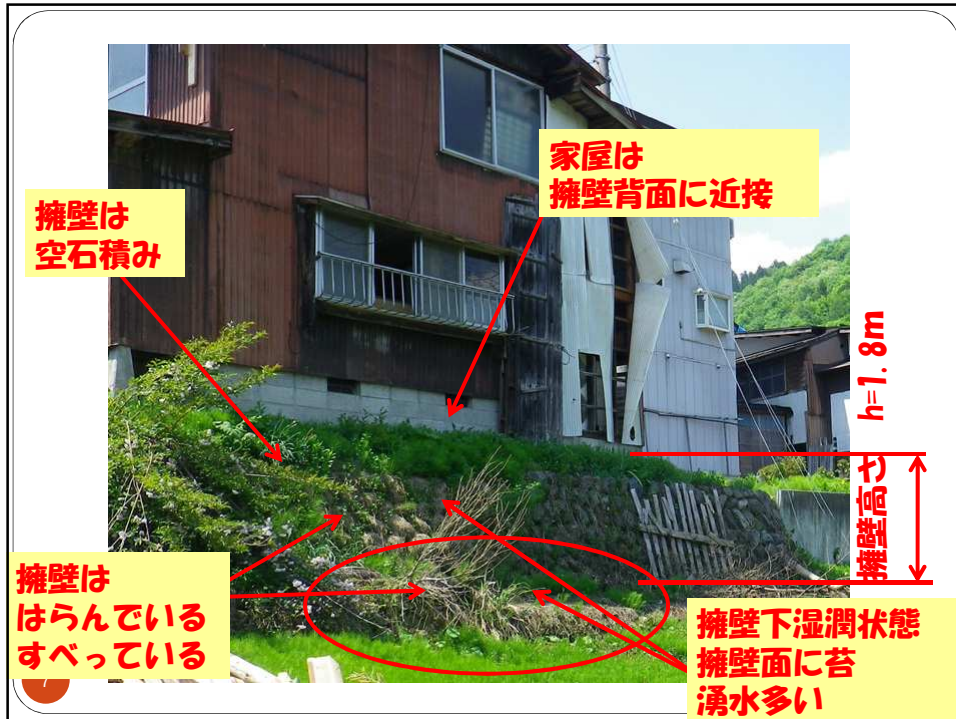
まず周囲を眺めます。



5



6



(様式-2) 宅地地盤のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年 月 日	調査番号
被害発生場所		郡 市 町 村	地区 地番	丁目 番 号
所有者・管理者の連絡先		TEL:	記入者氏名	TEL:
被災状況		被災状況	被災状況	被災状況
宅地地盤		のり面・自然斜面		
1.クラック	2.陥没	3.段差	4.隆起	5.傾斜
6.1.クラック	7.2.1.陥没	8.2.2.隆起	9.3.1.浸食	10.4.1.崩落
5.のり面崩壊土家状 6.地下水漏れの変状				
<p>宅地地盤・宅地の被災状況は、被災状況図に記録することができる。</p> <p>ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地図上に記載し、被害が大きいことが確認できる箇所を写真撮影する。</p>				
被災状況図記入				
[平面図]		[断面図]		
被災写真の有無	[]	[]	[]	[]
特記事項	[]			

宅地地盤
様式-2

変状の程度判定

ここでは、

店先が全体的に沈下 20cm → 中
液状化と思われる 噴砂現象あり。

9

変状の採点

表3-24 宅地地盤の配点表

程度	宅地地盤の配点表		
	小	中	大
1クラック(幅)	1	3	5
2陥没(深さ)	2	4	6
3沈下(沈下量・規模)	2	4	7
4段差(段差量)	3	5	8
5隆起(隆起量・規模)	7	8	9
6湧水・噴砂	液状化による噴砂あり 1点加算		
合計値	5		

10

宅地地盤の被害の判定

- 変状点の合計値

5

- 点数範囲

4~7点

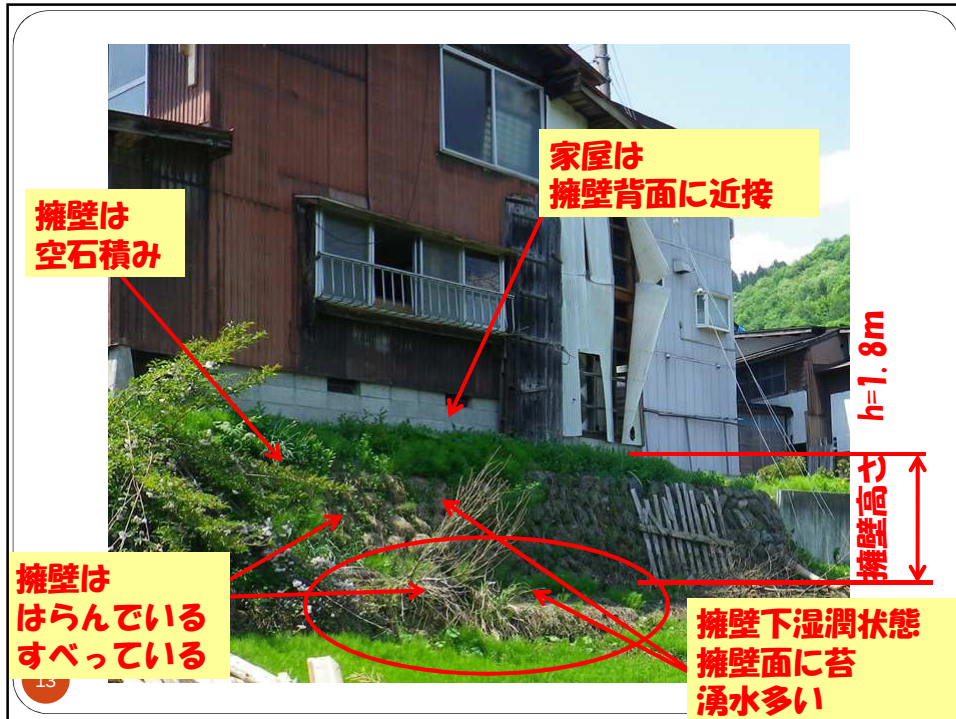
- 判定区分

中

危険度中

		のり面・自然斜面の基礎的條件									
地盤	岩	土 砂				擁壁		オーバーハング		その他	
		○軟弱	○緩斜	○不明	○砂質土	○砂質土	○粘性土	○不明	○無	○有	○無
のり面高	最大高	m(平均値)		m		のり面傾斜		のり面上部		のり面下部	
傾斜のり面は標準条件	傾斜角	度		度		傾斜位置		のり面上部		のり面下部	
のり面勾配	傾斜角	度		度		傾斜位置		のり面上部		のり面下部	
のり面勾配	傾斜角	度		度		傾斜位置		のり面上部		のり面下部	
変状形態と配点表											
変状形態のチェック(配点可)											
宅地	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15 cm未満又は	3	15 cm以上又は全面	5				
地盤	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上	6				
	3 土下流下盤	10 cm未満	2	10~50 cm未満	4	50 cm以上	7				
	4 段差段差	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上	8				
	5 陥没陥没	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上	9				
6 湧水・噴砂	○無 ○有(1点以上の点数に1点加える)										
変状形態のチェック(配点可)											
のり面・自然斜面	1 クラック(幅)	3 cm未満又は長さ	1	3~15 cm未満又は長さ	2	15 cm以上又は全面	3				
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~20 cm未満	4	20 cm以上	5				
	3 ガリ・咬食	クラックなどが原因となつて雨降による浸食が認められた段階	6	のり面の崩壊が雨降に陥没するなど放置してあるおそれのあるもの	7	崩壊が顕著に及び下層に被害を及ぼすような状態	8				
	4 露部・崩壊	部分的な露部すべり、又はのり面上部の小崩壊	7	露部すべりが進んでえぐり取られたような状態、崩壊すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部まで崩壊	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれのあるもの、又はのり面底部を含む崩壊	9				
	5 のり面保護工の劣化(掘土工は除く)	例えば、のり面の防砂柵、又はコンクリート敷石はむき出しにクラックや剥離が認められるが、剥離が認められない程度	7	例えば、のり面の部分的な崩壊、又はコンクリート敷石のクラック部分で陥没、ずれが見受けられる	8	例えば、のり面のすべり崩壊、又はコンクリート敷石の劣化による劣化が顕著に認められる	9				
	6 排水施設の状態	排水設備が正常に作動し、欠損がある、又は、天候等により、排水設備にクラックが認められる	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある	5	排水設備が顕著に劣化するなど、排水機能が失われている	7				
	7 のり面内の水溜まりの発生	継続して水が流出している									
	8 湧水・露石・転石	○無 ○有(1点以上の点数に1点加える)									
総合的判定											
危険度の判定											
危険度の判定											
危険度の判定											
危険度の判定											

宅地地盤
様式-2



(様式-1) 擁壁被害状況調査-危険度判定票

調査票	調査日時	年	月	日	調査番号
被害発生場所	都道府県	市区町村	番	号	TEL:
所有者・管理者の氏名	省略してよい				
所有者・管理者の連絡先	TEL:	説明	<input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 他人施設住宅		
<input type="checkbox"/> 被災 <input type="checkbox"/> 状況 <input type="checkbox"/> 状況 <input type="checkbox"/> 状況			<input type="checkbox"/> 記念物 <input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了 <input type="checkbox"/> 被災無 <input type="checkbox"/> 調査記録		
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.傾斜	5-1.傾斜
5-2.割壊	6.擁壁の劣化	7.崩壊	8.擁壁の劣化	9.崩壊	10.湧水
5.割壊(崩壊)時の状況 7.崩壊及び重要施設の被害 10.湧水漏洩の状況			建物・道路との位置関係(基準点)		
非難時記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を在宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。					
変状チェック					
被災状況図記入					
【平面図】			【断面図】		
被災写真の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(写真番号)					
特記事項					

宅地擁壁
様式-1

擁壁の基礎的条件／擁壁の種類

- 判定マ-18 表3-6 擁壁の種類

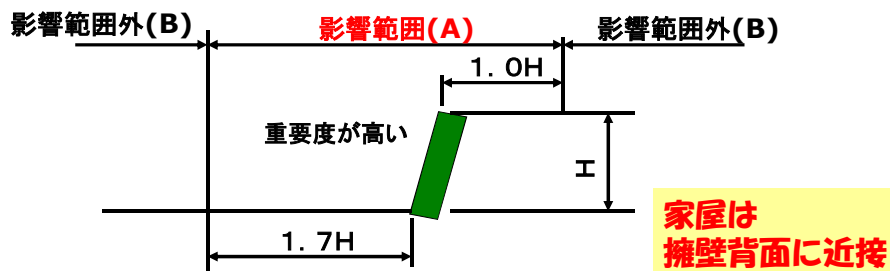


ここでは、**空石積み擁壁**に該当します

15

基礎点／擁壁の位置関係

- 判定マ-13 図3-1 建物 道路との位置関係



ケース	条件
A	影響範囲に建物または道路が存在する
B	影響範囲に建物または道路が存在しない

ここでは、**ケースA**に該当します

16

判定マ-12 表3-1 擁壁の基礎点項目と配点表

区分	項目	分類	A	B	
基礎点	地盤条件	湧水	乾燥	0	0
		湧水	湿潤	0.4	0.2
		湧水	にじみ出し・流出	0.8	0.4
	構造諸元	排水施設等	Ⅲ	0	0
			Ⅱ	0.4	0.2
			Ⅰ	0.8	0.4
		擁壁高さ	$H \leq 1m$	0	0
			$1m < H \leq 3m$	0.2	0.1
			$3m < H \leq 4m$	0.4	0.2
			$4m < H \leq 5m$	0.6	0.3
			$5m < H$	0.8	0.4

17

基礎点の採点(湧水の状況)

- 判定マ-20 表3-7 湧水の状況分類



湧水が確認されているので
にじみ出し・流出 に該当します。

擁壁下湿潤状態
擁壁面に苔
湧水多い

18

判定マ-12 表3-1

区分	項目	分類	A	B	
基礎点	地盤条件	湧水	乾燥	0	0
		湧水	湿潤	0.4	0.2
		湧水	にじみ出し・流出	0.8	0.4
	構造諸元	排水施設等	Ⅲ	0	0
			Ⅱ	0.4	0.2
			Ⅰ	0.8	0.4
		擁壁高さ	$H \leq 1m$	0	0
			$1m < H \leq 3m$	0.2	0.1
			$3m < H \leq 4m$	0.4	0.2
			$4m < H \leq 5m$	0.6	0.3
$5m < H$	0.8	0.4			

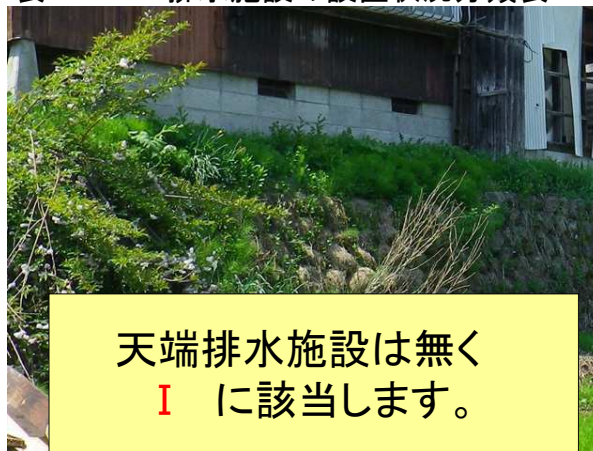
擁壁下湿潤状態
擁壁面に苔
湧水多い

19

基礎点の採点（排水施設の状況）

- 判定マ-22

表3-10 排水施設の設置状況分類表



天端排水施設は無く
Ⅰに該当します。

20

判定マ-12 表3-1

区分	項目	分類	A	B	
基礎点	地盤条件	湧水	乾燥	0	0
			湿潤	0.4	0.2
			にじみ出し・流出	0.8	0.4
	構造諸元	排水施設等	Ⅲ	0	0
			Ⅱ	0.4	0.2
			Ⅰ	0.8	0.4
		擁壁高さ	$H \leq 1m$	0	0
			$1m < H \leq 3m$	0.2	0.1
			$3m < H \leq 4m$	0.4	0.2
			$4m < H \leq 5m$	0.6	0.3
			$5m < H$	0.8	0.4

21

基礎点の採点(擁壁の高さ)

- 判定マ-24 表3-13 擁壁の高さ



22



判定マ-1 4

程度	空積み擁壁の配点表		
	小	中	大
1クラック			
2水平移動	6		
3不同沈下・目地開き			
4ハラミ	8		
5傾斜・倒壊			
6擁壁の折損			
7崩壊	8	9	10
8張出し擁壁支柱損傷			
9基礎及び基礎地盤被害		10	
10排水施設の変状	3	5	7
11背面の水道管破損等		10	
最大値		8	

ここでは、
変状点の最大値を抽出する
→ 8点

26

12

- 宅地地盤の危険度評価 → **危険度中**
- 宅地擁壁の危険度評価 → **危険度大**



【総合判定】

危険宅地

変状が特に顕著、危険な住宅地。

早急に所有者等に対して勧告・改善命令が必要。

防災工を行う必要がある。

周辺に被害を及ぼさないよう指導する。

29

危険度判定票を作成してみよう

宅地編 / のり面編

26

まず周囲を眺めます。



建物が少し後傾している

沈下15cm程度

3cm未満のクラックが複数

31



電柱が少し傾いている

建物が動く
土が盛上がる

建物は明確なクラックありません

のり面が滑っている

32

(様式-2)宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票	調査日時	年 月 日 時	調査番号
被害発生場所	都道府県	市区町村	番 号
所有者・管理会社名	地区団地	記入者氏名	TEL:
所有者・管理会社の連絡先	TEL:	居住者への説明	<input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了
<input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 老人独居住宅		<input type="checkbox"/> 緊急措置 <input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了 <input type="checkbox"/> 被災無 <input type="checkbox"/> 被害記録	
<被災状況図>			
宅地地盤 のり面・自然斜面			
1.2.3.4.?	2.陥没	3.段下	4.踏差
5.陥凹	1.クラック	2-1.ハコ	2-2.壁むれ
3.5.7-浸水	4-1.凍害	4-2.凍結	
5.のり面保護工実施 6.排水施設の変状			
※宅地地盤・宅地のり面で撮影記録をする場合は、被災状況図は省略することができます。ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を在宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。			
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #f08080; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">被災状況図記入</p> </div>			
[平面図]		[断面図]	
被災写真の有無	[<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有一写真番号]		
特記事項			

宅地地盤

様式-2

33

変状の程度判定

ここでは、

建物表のアスファルト面に

3cm未満のクラックが複数 → 中

15cm程度の沈下 → 中

建物は傾斜している

液状化はないようです

34

変状の採点

表3-24 宅地地盤の配点表

程度	宅地地盤の配点表		
	小	中	大
1クラック(幅)	1	3	5
2陥没(深さ)	2	4	6
3沈下(沈下量・規模)	2	4	7
4段差(段差量)	3	5	8
5隆起(隆起量・規模)	7	8	9
6湧水・噴砂	液状化による噴砂はなし		0点
合計値	4		

35

変状点の最大値を抽出する → 4点

宅地地盤の被害の判定

- 変状点の合計値

4

- 点数範囲

4～7点

- 判定区分

中

危険度中

36

		のり面・自然斜面の基礎的条件			
地盤	岩	□軟岩 □硬岩 □不明	オーバーハング	□無 □有	
のり面高	土 砂	□砂質土 □礫質土 □粘性土 □不明	排水施設	□無 □有(のり面、小段排水)	
のり面高(断面のり面は断面表参照)	最大高	m(平均高 m)	のり面保護工	□無 □植生土 □構造物	
のり面勾配	うち断面表	m	擁壁配置	□のり面の上部 □のり面の中部 □のり面の下部 □全面	
のり長さ	度	m	定規の有無	上部 □有 □無 下部 □有 □無	
変状形態と配点表					
変状形態のチェック(複数可)		小	中	大	
宅地地盤	1 クラック(幅)	3 cm未満	1 3~15 cm未満又は複数	3 15cm 以上又は全面	5
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2 20~50 cm未満	4 50 cm以上	6
	3 体下沈下量	10 cm未満	2 10~25 cm未満	4 25 cm以上	7
	4 段差段差量	20 cm未満	3 20~50 cm未満	5 50 cm以上	8
	5 擁壁陥没量	20 cm未満	7 20~50 cm未満	8 50 cm以上	9
	6 湧水、噴砂	□無 □有→+1点(上の点数に1点加える)			
変状形態のチェック(複数可)		小	中	大	
のり面・自然斜面	1 クラック(幅)	3 cm未満又は複数	1 3~15 cm未満又は複数	2 15 cm以上又は全面	3
	2 ハラミ(陥没量)	10 cm未満	3 10~30 cm未満	4 30 cm以上	5
	3 ガリー浸食	クラックなどが原因となつて雨溜りによる浸食が現れはじめた段階。	6	7 雨穴状や陥没状にガリーが進展して定規の基礎やのり面等の下部に被害を及ぼすような状態。	8
	4 層部・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	8 表層すべりが進んでえぐり取られるような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状(植生土は除く)	例えば、のり面の傾斜の緩急、又はコンクリート吹付工にわずかにランチョン状クラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	8 例えば、のり面の部分的な破壊、又はコンクリート吹付工のランチョン状部分で陥没・ずれが見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にすれ、欠損がある。又は、天端前面、後面にクラックが見られる。	3	5 排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破壊	破損して水が流出している。			8
	8 湧水、落石・転石	□無 □有→+1点(上の点数に1点加える)			
割式の判定		4 点		☆被害程度の点数と危険度判定☆	
※基礎面に浸り込み/最大傾斜を越えた点状/陥没等の場合は1点減、割式の判定無し				無被害: 0点(防災上問題無し)	
				小被害: 1~3点(防災上問題無し)	
				中被害: 4~7点(制限付き立入、通行しては建難)	
				大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)	
危険度判定		□大 □中 □小 □無	(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)		
周辺状況の把握		□大 □中 □小	(備考:)		
※建物等の傾斜は記載無し		□有 □無 □判断不可	(備考:)		

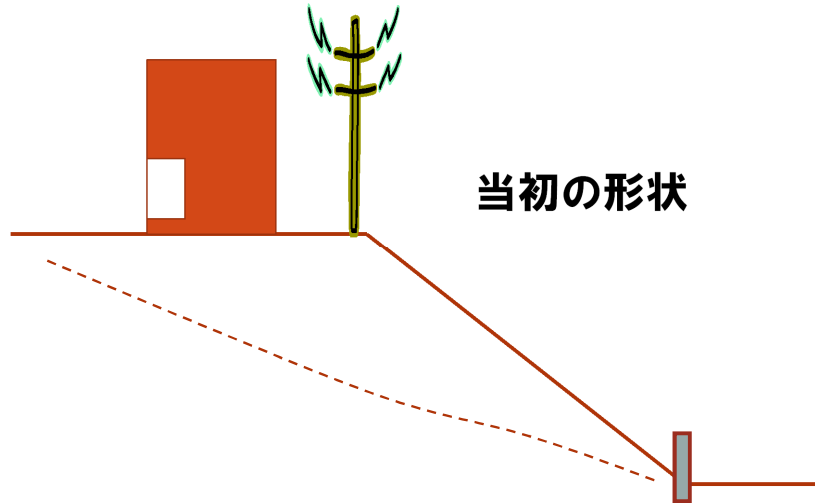
宅地地盤 様式-2

37

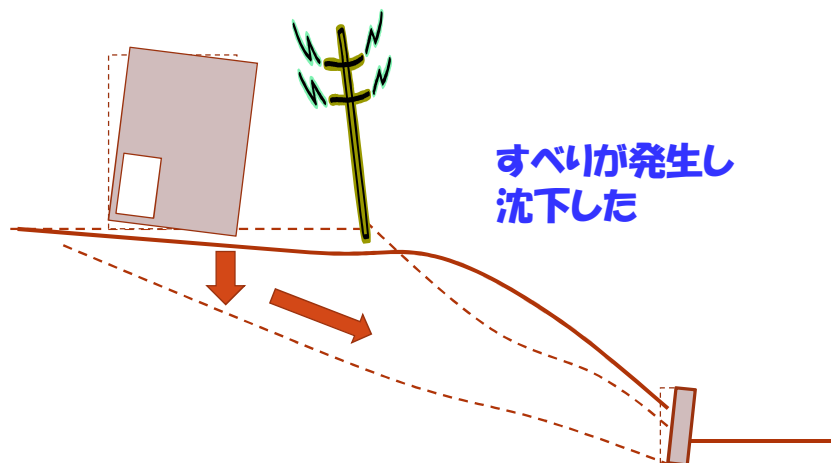


38

状況を図に落としてみます。



地震後は.....



(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年 月 日	調査番号
調査場所		調査地又は隣接調査地		
被害発生場所	地区 団地	市 郡	区 町 村	番 号
所有者・管理者氏名	記入者氏名	TEL:		
所有者・管理者の連絡先	居住者への説明	<input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了	<input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 老人独居住宅	
＜被災状況図＞		応急措置 <input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了 <input type="checkbox"/> 被災無 <input type="checkbox"/> 撮影記録		
宅地地盤		のり面・自然斜面		
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起
1.クラック	2.1.クラック	3.2.隆起	4.3.隆起	5.4.隆起
3.のり面修繕工変状		5.排水施設の変状		
		※宅地地盤・宅地のり面で撮影記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全数写真を撮影する。		
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="color: red; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">被災状況図記入</p> </div>				
[平面図]		[断面図]		
被災写真の有無	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有一写真番号		
特 記 事 項				

のり面
様式-2

41

変状の程度判定

ここでの変状は、「滑落・崩壊」
 規模は小さいが
 全面的なすべり
 程度 → 大

42

判定マ-50 表3-34 のり面自然斜面配点表

程度	のり面自然斜面の配点表		
	小	中	大
1クラック	1	2	3
2ハミ・盤ぶくれ	3	4	5
3ガリー浸食	6	7	8
4滑落・崩落	7	8	9
5のり面保護工の変状	7	8	9
6排水施設の変状	3	5	7
7のり面内の水道管等の破裂			8
8湧水・落石・転石	湧水・落石がなく加算点無し		
最大値	9		

43

変状点の最大値を抽出する → 9点

のり面の被害の判定

- 変状点の合計値

9

- 点数範囲

8~10点

- 判定区分

大

危険度大

44

のり面・自然斜面の基礎的状況		小		中		大	
危険	<input type="checkbox"/> 岩 <input type="checkbox"/> 軟弱 <input type="checkbox"/> 傾斜 <input type="checkbox"/> 崩壊	<input type="checkbox"/> 傾斜 <input type="checkbox"/> 崩壊	<input type="checkbox"/> 崩壊	<input type="checkbox"/> 崩壊	<input type="checkbox"/> 崩壊	<input type="checkbox"/> 崩壊	<input type="checkbox"/> 崩壊
のり面高	最大高 (m) (平均高 (m))	のり面保護工	のり面保護工	のり面保護工	のり面保護工	のり面保護工	のり面保護工
護岸のり面は護岸高	(うち擁壁高さ (m))	擁壁配設	擁壁配設	擁壁配設	擁壁配設	擁壁配設	擁壁配設
のり面勾配	度	なし	なし	なし	なし	なし	なし
のり長さ	m	家屋の有無	上部 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	下部 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			

変状形態のチェック(複数可)		小		中		大	
1	クラック(幅)	3mm未満	1	3~15mm未満又は複数	2	15mm以上又は全面	3
2	陥没(深さ)	20cm未満	2	20cm~50cm未満	4	50cm以上	6
3	低下(低下量・規模)	10cm未満	2	10~20cm未満	4	20cm以上	7
4	侵食(防犯壁)	20cm未満	3	20~50cm未満	5	50cm以上	8
5	隆起(隆起量・規模)	20cm未満	7	20~50cm未満	8	50cm以上	9

変状形態のチェック(複数可)		小		中		大	
1	クラック(幅)	3mm未満又は単数	1	3~15mm未満又は複数	2	15mm以上又は全面	3
2	ハヤミ・龜裂(れ) (隆起量・規模)	10cm未満又は宅地ごとのり面等面積に対し10%未満	3	10~20cm未満又は宅地ごとのり面等面積に対し10~50%未満	4	20cm以上又は宅地ごとのり面等面積に対し50%以上	5
3	ガリー・浸食	クラックなどが原因となつて崩壊した部分が見られる	6	のり面の表土が崩壊し、崩壊している部分がある	7	高圧水噴射による崩壊が確認されている	8
4	湧水・湧出	部分的な湧水あり、又はのり面上部の小崩壊	7	湧水ありが確認できる	8	全面的な湧水あり、又はのり面下部を含む	9
5	のり面保護工の実状(補修工は除く)	例えば、のり面の崩壊防止工、又はコンクリート敷設工が完了している	7	例えば、のり面の部分的な崩壊、又はコンクリート敷設工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる	8	例えば、のり面の部分的な崩壊、又はコンクリート敷設工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる	9
6	排水施設の実状	排水溝にすれ、欠損がある。又は、天端埋没、継ぎ目にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地埋没、継ぎ目にクラックが見られる。	5	排水溝の破損で排水が滞り、排水機能が失われている。	7
7	のり面内の水道管等の破損	破損して水が漏出している。					8

9	危険度判定	危険度判定
9	危険度判定	危険度判定

のり面
様式-2

- 宅地地盤の危険度評価 → **危険度中**
- のり面の危険度評価 → **危険度大**



【総合判定】

危険宅地

変状が特に顕著で危険である。
避難立ち入り禁止措置が必要。

危険度判定票を作成してみよう

宅地（液状化）編

43

まず周囲を眺めます。



路面舗装変状
波打つ不同沈下



応急復旧
で舗装をはぎ
整地していた

48

大通りの歩道に噴砂跡.....



49



全域的な
噴砂現象です

下流側に
水平移動

建築の応急危
険度は
「危険」

家屋は
倒壊寸前

50



51

(様式-2) 宅地地盤のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年 月 日	調査番号
調査場所		地番名又は隣組番名		
被害発生場所		都道府県	市郡	区町村
所有者・管理者氏名		地区 団地	丁目	番 号
TEL:		記入者氏名	TEL:	
TEL:		居住者への説明	<input type="checkbox"/> 済	<input type="checkbox"/> 未了
5.のり面補填工事状況		安全措置	<input type="checkbox"/> 済	<input type="checkbox"/> 未了
6.排水施設の変状		危険箇所	<input type="checkbox"/> 済	<input type="checkbox"/> 未了

宅地地盤

1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起
--------	------	------	------	------

のり面・自然斜面

1.クラック	2-1.ハナシ	2-2.壁ぶれ	3.切り侵食	4-1.崩落	4-2.崩壊
--------	---------	---------	--------	--------	--------

宅地地盤・宅地のり面で陥没記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。
ただし、調査箇所が分かるよう特定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。

被災状況図記入

[平面図] [断面図]

被災写真の有無 無 有一写真番号 []

特記事項

宅地地盤

様式-2

52

変状の程度判定

概況は、家屋が水平移動している
家屋が地震動で倒壊寸前
沈下 20cm → 中
陥没 50cm → 大
隆起 30cm → 中
周辺全体が 液状化エリア

53

宅地地盤の危険度評価／隆起・沈下・液状化

表3-9 宅地地盤の配点表

程度	宅地地盤の配点表		
	小	中	大
1クラック(幅)	1	3	5
2陥没(深さ)	2	4	6
3沈下(沈下量・規模)	2	4	7
4段差(段差量)	3	5	8
5隆起(隆起量・規模)	7	8	9
6湧水・噴砂	全体的に液状化エリア 1点加算		
合計値	9		

54

最大値8点＋加算点1点 → 合計9点

のり面・自然斜面の基礎的条件		ボーバーハンク		土留	
地盤	特 別 土 砂	<input type="checkbox"/> 軟弱 <input type="checkbox"/> 緩斜 <input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり
のり面高	最大高	<input type="checkbox"/> 0.5m未満 <input type="checkbox"/> 0.5m以上	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり
のり面勾配	度	<input type="checkbox"/> 10%未満 <input type="checkbox"/> 10%以上	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり
のり長さ	m	<input type="checkbox"/> 10m未満 <input type="checkbox"/> 10m以上	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> あり

変状形態と配点表		小		中		大	
実形状態のチェック(複数可)		1	2	3	4	5	6
1 クラック(幅)	3cm未満	1	2	3	4	5	6
2 陥凹(深さ)	20cm未満	2	3	4	5	6	7
3 低下(低下)	10cm未満	2	3	4	5	6	7
4 段差(段差)	20cm未満	3	4	5	6	7	8
5 踏み(踏み)	20cm未満	7	8	9	10	11	12
6 湧水・噴砂	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	1	2	3	4	5	6

変状形態と配点表		小		中		大	
実形状態のチェック(複数可)		1	2	3	4	5	6
1 クラック(幅)	3cm未満又は長さ	1	2	3	4	5	6
2 ハラミ(陥凹量)	10cm未満	3	4	5	6	7	8
3 ガリ一浸食	クラックなどが原因となって崩壊による浸食が認められた段階。	6	7	8	9	10	11
4 湧水・噴砂	部分的な浸食を伴う湧水、又はのり面上部の小崩壊。	7	8	9	10	11	12
5 のり面保工の変状(養生は除く)	例えば、のり縁の崩壊、又はコンクリート吹付工のクラックが認められるが吹付工のずれは認められない程度。	7	8	9	10	11	12
6 排水施設の変状	天幕排水溝にずれ、欠損がある、又は、天幕排水溝、排水面にクラックが見られる。	3	4	5	6	7	8
7 のり面内の水溜り等の確認	確認して水が流出している。	3	4	5	6	7	8

総合判定値	9	点
危険度判定	大	中 小 無

宅地地盤

様式-2

55

宅地地盤の被害の判定

- 変状点の合計値

9

- 点数範囲

8~10点

- 判定区分

大

危険宅地

変状等が特に顕著で危険である。

避難立入禁止措置が必要。

56

ご静聴ありがとうございました

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会

57